

第90回取締役会の内容について

IGRいわて銀河鉄道株式会社(代表取締役社長 浅沼康揮)では、「第90回取締役会」において、下記の点について承認されましたのでお知らせします。

- 【資料1】 令和3年度事業計画について・・・p.1～3
- 【資料2】 令和2年度決算見込みについて・・・p.4～5
- 【資料3】 銀河ダイニング「へのへの」のオープン及び
ミニストップ一戸店の閉店と活用について・・・p.6
- 【資料4】 新型コロナウイルス感染症予防対策について・・・p.7
- 【資料5】 滝沢市との協働について
(車両ラッピング/巢子駅駅名標)・・・p.8
- 【資料6】 アクションプラン 2021 について・・・p.9～14
- 【資料7】 利用促進事業について
(小学生100円きっぷ/旅行業オンライン予約化)・p.15

※お問い合わせにつきましては、本日16時30分まで受け付けておりますので、下記担当までご連絡ください。

令和3年度事業計画

1. 運営方針

(1) 令和3年度の運営方針

平成 14 年の開業以来、会社を取り巻く経営環境が大きく変化する中、平成 25 年度に安定的経営の持続等を目的とした「新・経営ビジョン」を策定しました。併せて、これらビジョンの実現に向けた前期中期経営計画(2013～2017)を策定し、アクションプラン等を通じて計画の達成に向けて取組んできたところです。

しかしながら、平成 28 年度に寝台特急が運行終了となったことや人口の減少により、旅客運輸収入が大きく減少したことに加え、令和2年度には新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、経営はさらに厳しさを増している状況にあり、新型コロナウイルス感染症に対応した事業の見直しが求められています。

このような中、地域の足を守ることが当社の使命であることから、安全の確保にかかる取組みについては最優先とし、鉄道の根幹である安全・安定輸送を堅持するとともに、お客さまにとってかけがえのない鉄道でありつづけることを目的に策定した「後期中期経営計画(2018～2022)」にポストコロナを加えた以下の視点に立ち、転換期、変革期における各種事業の展開、見直しや運営体制の強化に取り組むものです。

ア 増収増益

ウィズコロナ及びポストコロナのニーズを踏まえた事業を展開し、継続的な収入の確保と、収益性の向上に努めるとともに、果敢に新規事業や諸課題の見直しにチャレンジします。

イ 財務運営

当社の財務運営につきましては、収支計画及び設備投資計画をもとに資金繰り計画を策定し、経営状況を踏まえて金融機関等と協議の上、円滑な財務運営に取り組めます。

ウ 地域との協働

沿線地域の関係機関、関係団体や沿線の皆様との信頼関係をより強固なものとしながら、地域のために何をなすべきか、何ができるかという視点に立ち、ともに協力して地域を支え、魅力発信や活性化に取り組み、地域にとって「かけがえのない鉄道」となることを目指します。

(2) アクションプラン2021

令和3年度は、平成 30 年度を初年度とする後期中期経営計画の後期年度に当たることから、すべての重点項目に対し PDCA サイクル(Plan/Do/Check/Act)の「Check/Act(評価・改善)」を行い、計画の達成に向けた取り組みを行います。

※別添「アクションプラン 2021」参照

2. 営業計画

(1) 営業施策

【増収増益】

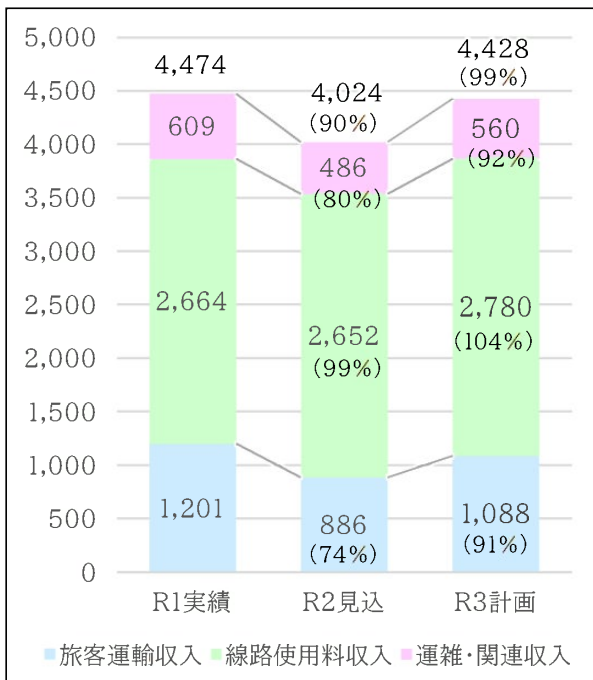
1. 利用実態調査の結果を踏まえた利用促進策の検討 主要駅における利用実態調査を実施し、調査結果をもとに利用しやすいダイヤ設定や駅の営業体制等を再構築することで増益に繋げていきます。また、移動円滑化によるサービス向上及び新型コロナウイルス感染症対策として非接触化を図るために、ICの導入について検討を進めていきます。
2. 盛岡駅-青森駅間開通 130 周年記念行事の実施 東北デスティネーションキャンペーンに合わせて盛岡駅-青森駅間の開通 130 周年を記念し、他社と連携した共同企画商品を販売して増収を図ります。
3. 飲食業二戸店 銀河ダイニング「へのへの」 オープン 「ENSEN つなぐダイニング」のコンセプトのもと、北いわてのゲート駅でもある二戸駅を拠点として、県北地域の活性化及び増収を図っていくとともに、「びすところ銀河」との相乗効果を狙っていきます。

【地域との協働】

1. 盛岡駅-青森駅間開通 130 周年記念行事の実施(再掲) 東北デスティネーションキャンペーンに合わせて盛岡駅-青森駅間の開通 130 周年を記念し、沿線地域と連携した企画を実施していきます。
2. ファンクラブ会員に向けた沿線物産の情報発信及びオンラインショップの開設 IGR パートナーズ会と連携した沿線物産情報をファンクラブ会員へ向けて情報発信することで、IGR 沿線の魅力を知っていただく機会を創出するとともに、オンラインショップを開設することで地域にとって新たな顧客を開拓し、沿線地域の賑わい創出に繋げていきます。
3. 旅行業における地場産品と組み合わせたオンラインツアーの実施 新型コロナウイルス感染症の影響によるニーズ変化を踏まえて、旅行が出来ない顧客に対して、地場産品と組み合わせたオンラインツアーを設定することで、ツアーに付加価値をつけて誘客に繋げるとともに、沿線地域の魅力を PR することで、ポストコロナに向けたリピーターを増やしていきます。

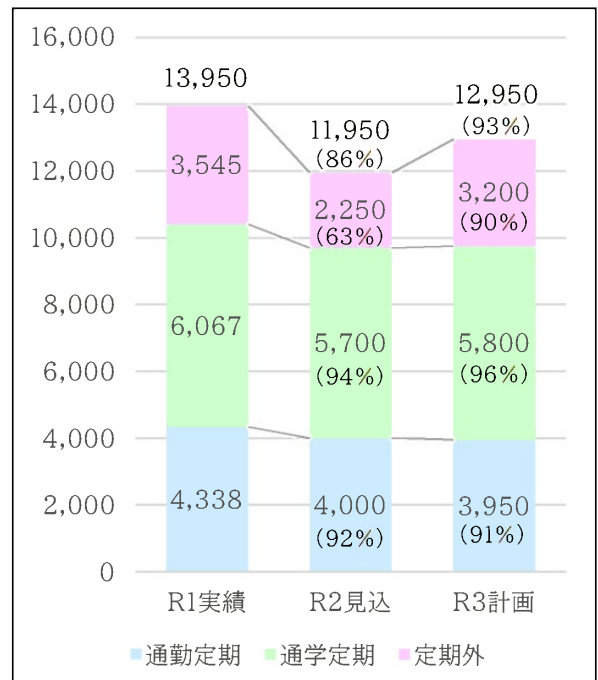
(2) 営業収入

(単位:百万円/年)(対 R1 年度比%)



(3) 輸送人員

(単位:人/日)(対 R1 年度比%)



3. 収支計画

(単位:千円、税抜)

項目	R3年度 収支計画 A	R2年度 決算見込 B	増減 C (A-B)	Cの主な増減要因	R元年度 決算 D	増減 A-D
営業収入	4,428,139	4,024,575	403,564		4,473,819	▲ 45,680
旅客運輸収入	1,088,273	886,159	202,114	運賃収入の増	1,201,281	▲ 113,008
線路使用料収入	2,779,866	2,651,974	127,892	営業費に連動して増	2,663,680	116,186
運輸雑収 関連事業収入 商品売上	560,000	486,442	73,558	商品売上の増	608,858	▲ 48,858
営業費	4,761,679	4,560,927	200,752		4,572,098	189,581
人件費	1,131,524	1,091,888	39,636	計画的な新規採用による人件費の増	1,101,610	29,914
業務費	1,011,343	904,011	107,332	商品仕入及び業務委託費の増	994,974	16,369
修繕経費	2,138,968	2,102,786	36,182		2,040,058	98,910
諸税	126,231	125,106	1,125		121,163	5,068
減価償却費	353,613	337,136	16,477		314,292	39,321
営業損益	▲ 333,540	▲ 536,352	202,812		▲ 98,278	▲ 235,262
営業外収益	11,741	191,159	▲ 179,418	運行支援交付金及び 雇用調整助成金の減	15,487	▲ 3,746
営業外費用	8,156	14,751	▲ 6,595		9,881	▲ 1,725
経常損益	▲ 329,955	▲ 359,944	29,989		▲ 92,673	▲ 237,282
特別利益	184,847	405,066	▲ 220,219	R2工事負担金等収入 (境田川原踏切拡幅工事)	126,855	57,992
特別損失	129,730	330,398	▲ 200,668	R2固定資産圧縮損 (境田川原踏切拡幅工事)	82,281	47,449
税引前当期損益	▲ 274,838	▲ 285,276	10,438		▲ 48,099	▲ 226,739
法人税等	4,394	4,394	0		4,394	0
当期損益	▲ 279,232	▲ 289,670	10,438		▲ 52,493	▲ 226,739

※千円未満端数処理の関係で、各項目の合計と合致しない場合がある。

令和2年度決算見込みの概要

■全体概要

令和2年度の当期損益は 2億8,960万円の赤字 になる見込み
旅客運輸収入は当初計画から27%(3億3,270万円)の減収となる見込み

[当初計画対比]

新型コロナウイルス感染症の影響により、旅客運輸収入が減収（27%減/3億3,270万円）するなど、営業収入は5億9,120万円の減収となりました。一方、営業費を2億4,920万円圧縮したことにより、営業損失は3億4,200万円となる見込みです。

これに補助金等を加えて当期損失は1億880万円の圧縮となり、2億8,960万円となる見込みです。

[第89回取締役会決算見直し対比]

当期損失は3億1,320万円から2,360万円の圧縮を図り、2億8,960万円となる見込みです。

営業収入が3,470万円の減収となりましたが、営業費を590万円圧縮したことにより、営業損益は2,880万円の減益となりました。

一方、国の補助事業（老朽設備取替や新型コロナウイルス感染症対策等）を積極的に活用するとともに、自治体からの受託事業（日本遺産奥南部漆物語推進事業）にも新たにチャレンジして、補助金を計上したことにより、当期損失を2,360万円圧縮しました。

■営業収入について

（ ）は令和2年度決算見直し対比

当初計画 46億1,580万円 → 決算見込み 40億2,450万円
(第89回取締役会)
(決算見直し 40億5,920万円)

【旅客運輸収入の減】 ▲3億3,270万円（▲3,120万円）： 運賃収入の減
 【線路使用料収入の減】 ▲1億5,360万円（▲590万円）： 営業費に連動して減

■営業費について

（ ）は令和2年度決算見直し対比

当初計画 48億1,010万円 → 決算見込み 45億6,090万円
(第89回取締役会)
(決算見直し 45億6,680万円)

【業務費の減】 ▲1億5,820万円： 旅費交通費、車両使用料の減
(▲560万円： 旅費交通費、水道光熱費等の減)
 【人件費の減】 ▲6,720万円： 退職者等による減
(480万円： 超勤手当等の増)

あさぬま やすき
 ～代表取締役社長 浅沼 康揮 コメント～

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、旅客運輸収入が大きく減収し、令和2年度は赤字決算の見込みとなりました。

当社を取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、安全安定輸送を最優先としたうえで、事業の見直しや業務の効率化など、コスト圧縮に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底し、公共交通機関としての役割を果たしてまいります。

令和2年度決算見込み

(単位:千円、税抜)

項目	R2年度 決算見込み A	R2年度 決算見通し (12月時点) B	増減 C (A-B)	Cの主な増減要因	R2年度 当初計画 D	増減 E (A-D)	R元年度 決算 F	増減 G (A-F)
営業収入	4,024,575	4,059,281	▲ 34,706		4,615,829	▲ 591,254	4,473,819	▲ 449,244
旅客運輸収入	886,159	917,431	▲ 31,272	運賃収入の減	1,218,916	▲ 332,757	1,201,281	▲ 315,122
線路使用料収入	2,651,974	2,657,944	▲ 5,970	営業費に運動して減	2,805,667	▲ 153,693	2,663,680	▲ 11,706
運輸雑収 関連事業収入 商品売上	486,442	483,906	2,536	部外関連工事収入の増 鉄道グッズ売上の増	591,246	▲ 104,804	608,858	▲ 122,416
営業費	4,560,927	4,566,861	▲ 5,934		4,810,151	▲ 249,224	4,572,098	▲ 11,171
人件費	1,091,888	1,087,029	4,859	超動手当等の増	1,159,174	▲ 67,286	1,101,610	▲ 9,722
業務費	904,011	909,646	▲ 5,635	旅費交通費及び水道光熱費の減等	1,062,233	▲ 158,222	994,974	▲ 90,963
修繕経費	2,102,786	2,107,508	▲ 4,722	工事計画の精査による減	2,117,566	▲ 14,780	2,040,058	62,728
諸税	125,106	126,190	▲ 1,084	固定資産税の減	131,636	▲ 6,530	121,163	3,943
減価償却費	337,136	336,488	648		339,542	▲ 2,406	314,292	22,844
営業損益	▲ 536,352	▲ 507,580	▲ 28,772		▲ 194,321	▲ 342,031	▲ 98,278	▲ 438,074
営業外収益	191,159	189,738	1,421	発生品売却の増	14,494	176,665	15,487	175,672
営業外費用	14,751	14,435	316		14,293	458	9,881	4,870
経常損益	▲ 359,944	▲ 332,277	▲ 27,667		▲ 194,120	▲ 165,824	▲ 92,673	▲ 267,271
特別利益	405,066	353,359	51,707	補助金収入の増等	124,563	280,503	126,855	278,211
特別損失	330,398	329,920	478		107,318	223,080	82,281	248,117
税引前当期損益	▲ 285,276	▲ 308,838	23,562		▲ 176,875	▲ 108,401	▲ 48,099	▲ 237,177
法人税等	4,394	4,394	0		3,984	410	4,394	0
当期損益	▲ 289,670	▲ 313,232	23,562		▲ 180,859	▲ 108,811	▲ 52,493	▲ 237,177

※千円未満端数処理の関係で、各項目の合計と合致しない場合がある。

1. 銀河ダイニング「へのへの」オープンについて

二戸駅に隣接するカシオペアメッセなにゃーと内飲食店のオープンについて、現在の状況を下記の通り報告します。

- [目的] 沿線地域の活性化、鉄道事業との相乗効果、安定経営への寄与
- [方針] 食を通じた沿線地域の活性化
- [店名] 「銀河ダイニング へのへの」
※社内募集約 40 案からジャンル、価格帯、ターゲット、地域性、ストーリー性、印象について審査・社内決定
- [オープン予定] 令和3年4月中旬を予定
- [営業時間] 11時00分～21時30分(予定) ※コロナ禍の状況で変更もあり。
- [メニュー] 現在のメニューをブラッシュアップしたものに地域の特色のある地産メニューを追加し、地域色を打ち出したメニュー構成にする予定
- [スタッフ] 店舗運営スタッフは、調理師と調理補助兼ホール係に飲食アドバイザー1名を加えた計8名による運営

2. ミニストップいわて銀河鉄道一戸駅店の閉店及び活用について

平成27年8月にオープンしたミニストップいわて銀河鉄道一戸駅店は、地域の皆さまや列車・バスをご利用の方々にご愛顧いただきましたが、今後大幅な収支改善が見込めないことから、事業継続は困難であると判断し2月末をもって閉店いたしました。(第88回取締役会 第4号議案承認)

閉店後の空きスペースの活用方法については、一戸町の玄関口であることを踏まえ、駅を中心とした賑わいの創出、住民、駅利用者にとっての利便性という観点から一戸町と検討を進めております。

1. 一戸町での活用方法

観光案内交流スペースとして御所野遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を見据え、列車・バス利用者への観光案内拠点と、地域内外の方々が気軽に集える交流スペース機能を併せ持った場所として整備します。

2. スケジュール

- 令和3年4月 一戸町への貸出し(内装・設備等工事)
- 6月 観光案内スペース 先行オープン予定
- 8月 交流スペースオープン予定

新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルス感染症対策におけるこれまでの様々な取り組みに加え、国庫補助金を活用して、さらに対策を強化したことから、改めて新型コロナウイルス感染症対策について報告いたします。

1. 各駅の待合室へのオゾン発生器の設置について(新規)

新型コロナウイルス感染症の感染予防の一環として、お客さまが各駅の待合室を安心してご利用いただけるよう、2月に無人駅等を除く13駅の待合室へオゾン発生器を設置いたしました。

(※オゾンを発生させることによって新型コロナウイルスを不活性化し、感染を予防します。)



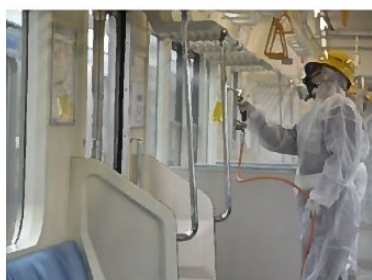
※参考:青山駅北口

2. これまでの新型コロナウイルス感染症対策について(継続)

これまで実施してきた新型コロナウイルス感染症対策については、安心してご利用いただける鉄道を目指して継続して取組み、利用促進を図っていきます。



熱感知カメラの設置



車両抗菌処理



駅の抗菌処理



啓発活動



消毒の設置

滝沢市との協働について

車両へのフルラッピング及び巣子駅のホーム柱への駅名標の設置について、滝沢市から協議をいただき、3月に完成したことから、その内容について報告いたします。

1. 車両のフルラッピングについて

新型コロナウイルス感染症の影響により鉄道の利用者が減少している中、県内外から注目度を高めつつ、マイルール意識の醸成と当社の認知度向上による利用者の増加を図ることを目的に、滝沢市の観光・物産などをテーマにした車両のフルラッピングを行うことになりました。

また、本事業におけるデザインにつきましては、滝沢市と当社に岩手県立大学の学生を交えて検討し、その後、デザイン会社を加えて詳細を決定したものととなります。

なお、今後のラッピング車両の活用については、滝沢市や岩手県立大学の学生と連携しながら、更なる利用促進を図っていきます。



2. 巣子駅のホーム柱への駅名標設置について

交通拠点の案内・標識を分かりやすいものへ改善するため、ホームにある柱へ駅名と滝沢市のイメージキャラクターや名産等をデザインした駅名標を設置しました。

[設置箇所数]11箇所

[駅名標種類]11種類(背景:青空/銀河)

(滝沢すいか/ちゃぐぼん/チャグチャグ馬コ

岩手山/クイックスイート/りんご(はるか)/ぎんきら)





アクションプラン2021

人を 地域を 未来へつなぐ、かけがえのない鉄道をめざします



IGRいわて銀河鉄道株式会社

はじめに

新・経営ビジョン(2013～2022)、中期経営計画(2018～2022)の考え方に沿った今年度の具体的な計画が、ここで紹介するアクションプラン 2021 です。

アクションプラン 2021 では、2020 年度の取組を踏まえたうえで、引き続き「安全・安定輸送の確保」を最優先に取組むとともに、関連事業も含め、これまでの取組みの成果を検証のうえ、沿線市町等関係者の皆さまの声を聴きながら、以下の視点に立ち、各種事業の展開・見直しや運営体制の強化に取り組んで参ります。

ア 増収増益

ウィズコロナ及びポストコロナのニーズを踏まえた事業を展開し、継続的な収入の確保と、収益性の向上に努めるとともに、果敢に新規事業や諸課題の見直しにチャレンジします。

イ 財務運営

当社の財務運営につきましては、収支計画及び設備投資計画をもとに資金繰り計画を策定し、経営状況を踏まえて金融機関等と協議の上、円滑な財務運営に取り組めます。

ウ 地域との協働

沿線地域の関係機関、関係団体や沿線の皆様との信頼関係をより強固なものとしながら、地域のために何をなすべきか、何ができるかという視点に立ち、ともに協力して地域を支え、魅力発信や活性化に取り組み、地域にとって「かけがえのない鉄道」となることを目指します。

四半期ごとに進捗状況を確認し、計画を見直し軌道修正していくことによって、取組を確実なものにしてまいります。(この要約版は、主なものを抜粋したものです。なお、重点項目は一部簡略化して記載しております)。

「安全・安心」を第一に、地域の旅客輸送・日本の物流の担い手として より信頼される鉄道であり続けます

◆ 社員一人ひとりが安全を最優先に業務に取り組む。

【さらなる安全・安心への取組】

重点項目	取組内容
○防災マニュアルの浸透、事業継続計画の充実、避難誘導等の防災訓練の実施など、自然災害への対応力を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異常時に対応する各種計画の見直し ・ 防災の日訓練の充実
○脱線復旧訓練・実車運転訓練などの各種訓練を関連機関と連携して実施するほか、事故・輸送障害への対応力を強化するとともに、万一事故が発生した場合、被害者の救護をはじめ適切な支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 踏切事故防止運動の実施 ・ 護身術教養訓練の実施 ・ 鉄道安全教室の実施 ・ 実車を使用した異常時対応訓練会の実施 ※ リモートの活用による訓練効果の拡大【新規】 ・ JR貨物総合脱線復旧訓練への参加

◆ 鉄道施設の信頼性を確保する。

【線路・電路設備の品質の維持・向上】

○計画的な設備更新により修繕費を削減するとともに、設備品質の維持・向上を図り、信頼性を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種工事の計画的な実施(ロングレール交換、橋マクラギ交換、電化柱の更新、分岐器全交換 等) ・ 不要設備の撤去及び低稼働設備の運用見直しによるランニングコストの削減(ホームの短縮 等)
○地震や集中豪雨等自然災害に対して強い設備を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川増水時における河岸の流失防止ブロックの設置(根固めブロック設置) ・ 河川増水時における橋脚の傾斜現象検知装置の設置(洗堀検知装置設置)
○技術勉強会や各種教育機関への計画的な派遣訓練を継続的に実施することで、プロパー社員の技術力を確立し、これまで培ってきた鉄道保守技術の継承を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 軌道・土木・電力・信通の系統毎に定期的な技術勉強会を開催 ・ 安全技術勉強会を設備管理所全体で年2回実施

【車両・輸送品質の向上】

○車両検修に係る作業の円滑化を図るとともに、車両の延命化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連会社との合同訓練会の実施 ・ 車両延命に不可欠な部品等の計画的な交換 ・ 運転状況記録装置のオーバーホール開始【新規】 ・ 蛍光灯のLED化【新規】
○将来の車両更新に備えて、車両製造・導入動向を調査するとともに、より効率的な車両運用のあり方や輸送需要や異常時対応をも考慮した必要車両数について、関係機関と検討を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社内に発足させた車両更新プロジェクトを中心として、令和9年度に想定される3編成(6両)及び令和13年に想定される4編成(8両)の車両更新について、引き続き関係機関との検討を進める。

実車運転訓練会



合同訓練会



護身術教養訓練



誰もが利用したくなるような、お客さまにやさしい、魅力的な鉄道をめざします

◆ お客さまの視点に立ったサービスを提供する。

【顧客ニーズに沿ったサービスの提供等】

重点項目	取組内容
○“お客さまの声”をはじめとしたサービス向上に資する情報の収集と分析を進めるとともに、お客さまに気持ちよくご利用いただけるサービス知識・技術の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> お客さまの声の収集分析及び共有化 サービス向上会議による議論推進及び改善 サービス知識・技能向上のセミナーへの参加

【地域特性に応じた発信力の強化】

○沿線市町や地域の皆様と連携しながら、駅を中心とした地域活性化に取り組むとともに、ニーズに沿った企画や地域に関する情報を発信し、地域に根差した 会社運営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 沿線市町や地域の皆様との繋がる機会の創出及び全社員の広報意識の醸成による情報発信力の強化【新規】 記者懇談会の実施 沿線自治体広報担当者との意見交換【新規】 社内広報体制の見直しによる情報発信力の強化【新規】 東北 DC 及び東北本線盛岡駅から青森駅開通 130 周年記念イベントを活用した沿線地域の賑わい創出【新規】 銀河鉄道まつりの開催 ファンクラブ会員に向けた沿線物産(パートナーズ会会員関連)の情報発信及びオンラインショップの開設【新規】 沿線への誘客ツアーの実施及びパッケージツアーの販売 地域イベントを通じた交流促進 HPやSNSによる情報発信を分析のうえ、ターゲット及び環境等を踏まえた効果的な情報発信の実施【新規】
--	--

◆ お客さまにとって便利で利用しやすい鉄道をめざす。

【駅や列車の利便性向上】

○“お客さまの声”や現場の提言を反映し、限られた資源の中でより良いダイヤを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> 利用者拡大を目標とした次期ダイヤ改正に向けての調査(主要駅利用状況調査)
○貨客混載輸送を導入する。	<ul style="list-style-type: none"> 貨客混載輸送導入に向けた関係機関との検討を継続
○サイクルトレインについて、具体的な検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、サイクルトレインの団体利用を検討
○駅や列車の利便性向上について、具体的な検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 駅設備等の IC 化に向けて引き続き検討 お客さまに対する運行情報の提供体制強化【新規】 JR 田沢湖線新駅整備(前潟地区)に伴う乗継運賃の検討【新規】

【バリアフリー環境の整備】

○バリアフリーに関する知識・技術の向上に取り組み、お客さまにとって利用しやすい鉄道を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 二戸市との協働による斗米駅及び金田一温泉駅のトイレ改修の実施【新規】 車椅子・携帯用スロープ等の対応訓練の実施
--	--

IGRパートナーズ会



SNSによる情報発信



車椅子対応訓練



地域のかげがえのない足として、将来にわたり健全で安定的な経営に努めます

◆ 地域鉄道を担う“民間”会社としての社会的な責務を果たす。

【黒字経営の継続】

重点項目	取組内容
○徹底した経費節減に努め、費用と収入の均衡を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期収支計画の随時更新 ・ 次年度事業計画策定フローの見直しの実施【新規】 ・ 予算管理の精度の向上及び評価の実施 ・ 主要駅乗降調査の結果による利用しやすいダイヤ設定及び駅の営業体制の検討【新規】
○鉄道旅客事業及び関連事業について、増収増益に繋がる取組を強化する。	<p>【鉄道事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学生の利用を促進させる企画の実施 ・ ラッピング列車ツアー及びイベントの実施【新規】 ・ 東北本線盛岡駅から青森駅開通 130 周年記念行事との共同企画商品の発売【新規】 ・ 奥中山高原駅の駅舎 80 周年記念行事の実施【新規】 <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旅行業においてオンライン沿線コンシェルジュ機能を構築【新規】 ・ 旅行業において地場産品と組み合わせたオンラインツアーを実施【新規】 ・ 一戸町と連携した台湾の新北投駅と奥中山高原駅の交流事業の実施【新規】 ・ 西和賀町と連携した清吉稲荷移築事業をきっかけとした交流事業の実施【新規】 ・ 飲食業において新幹線や在来線、さらには地域の交流地点である二戸駅に併設された「なにやーと」内に新たな店舗として銀河ダイニング「へのへの」を開業【新規】
○貨物調整金制度の維持継続等について要請等を行い、十分な理解を得るよう活動する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 並行在来線鉄道事業者協議会による活動

【“まちづくりの装置”としての鉄道】

○駅舎の改築や新駅の設置など、住民の利便性向上と地域の発展に大きく資する事業について、引続き沿線市町・県とともに検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各駅の利用状況及び周辺地域の状況を踏まえ、新駅設置または駅舎改築の必要性について検討 ・ 関係市町等との担当者会議の実施
○未利用地や未利用スペースの有効活用により収益の増加を図るとともに、地域のまちづくりに貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅未利用スペースの新たな活用について検討
○道路と公共交通双方の利便性向上のため、地域の交通計画を踏まえ、マイカーから公共交通機関へのシフトを図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県及び沿線市町の公共交通計画への参画

◆ 徹底した効率経営を追求するとともに関連事業を展開し、健全な経営を維持する。

【長期的に安定したキャッシュフローの確立】

重点項目	取組内容
○設備投資に要する資金の調達が必要となることから、長期的な視点でキャッシュフローの健全化を進めるため関係機関と検討を進める。	<ul style="list-style-type: none"> 資金繰り及びキャッシュフローシステムによる財務運営の見える化 <ul style="list-style-type: none"> ※ キャッシュフローの評価基準の設定 工事関係支払計画の精度向上

【人材の育成と適正な人員管理】

○採用活動を積極的に行い、優秀な人材を確保するとともに、外部研修機関の活用や他社への派遣研修等社員研修の充実を図り、社員一人ひとりの知識技能向上に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 採用イベントへの積極的な参加 経験者採用の強化に向けた関係機関へのPR強化 電車内での企業説明会の実施【新規】 社員の知識技能向上を目的とした各研修の実施 短期派遣研修の実施【新規】
○今後、必要とされる人材の育成に向けて、育成の方向性等を明確にするとともに、働き方の見直しや業務改善等による時間外労働の削減と社員のモチベーションの向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 新人事制度の運用と人材育成方針・計画の作成【新規】 働きやすい環境に向けたIT環境の整備【新規】 テレワークの導入に向けた検討【新規】

【業務改善の推進】

○不祥事の再発防止のため、不断にチェック体制を点検するとともに、業務改善等を通じて信頼回復に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 諸規程における見直しの実施 安全総点検の点検項目の適正な設定
---	---

【その他】

○今後の経営環境の変化に対応できる経営方針の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 持続的経営に資する次期経営ビジョン(案)の策定に向けた検討【新規】
---------------------------	---

小学生 100 円きっぷ



びすとろ銀河オードブル



オンラインツアー企画



企業説明会



インターンシップでの業務紹介



トップマネジメントステップアップ研修



いわて銀河鉄道利用促進協議会における補助事業について

コロナ禍において、当社の利用促進を図ることを目的とし、利用促進協議会の補助金を活用しながら下記事業を進めています。

1. 利用促進協議会補助事業(交付決定済の事業)

No	件名	内容
1	割引切符造成事業	小学生を対象とした冬休み春休みきっぷの造成
2	ネット予約システム整備事業	旅行業における募集企画ツアーのネット予約化
3	魅力発信事業	WEBサイトの構築やPR動画の作成等

2. 割引切符造成事業について

鉄道を利用する機会が少ない小学生を対象に長期休暇に気軽に利用できるように、100円で乗車できる格安な企画きっぷを発売して、小学生や親などの利用促進を図るとともに、県北の魅力を知っていただく機会を創出します。

【販売期間】

冬休み:令和2年12月19日～令和3年1月17日

春休み:令和3年3月6日～令和3年3月31日

【販売実績】

冬休み:売上 26,300 円(売上枚数 263 枚)

(1位:盛岡駅/2位:二戸駅/3位:いわて沼宮内駅)

春休み:販売期間中



3. ネット予約システム整備事業について

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、募集型企画旅行の予約、旅行代金のインターネット上での決済を可能とするシステムを整備することで、利用促進を図るとともに、お客さまの来店機会を減らし、お客さま及び従業員相互の感染予防を図るものであり、来年度からの運用開始を予定しております。

4. 令和3年度の取組みについて

令和3年度は東北デスティネーションキャンペーンが予定されており、利用促進の機運が高まっていることから、沿線を旅するモデルコースの紹介WEBサイトを構築するとともに、認知度向上による利用促進を目的としたPR動画の作成に加えて、ご利用いただくお客さまに楽しんでいただけるように車両や駅に工夫を施すなど、お客さまに県内外から来ていただけるよう利用促進に取り組めます。